ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得
地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條　河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條　河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ

其ノ豫算費用ノ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額幷不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條　河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條　營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クル

モノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第三十五條　公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條　流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條　地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工

事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徴收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徴收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條　河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條　河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附スル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條　此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尚河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關シ工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章　監督及强制手續

第四十九條　主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條　他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大

臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ揭ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受タル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ

違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スルニ爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條　災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

（河川ニ關スル行政監督明治二十九年六月勅令第二百三十五號）

朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條　左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス（三十二年勅令第二百八十七號ヲ以テ第一號中及云々ノ七字ヲ加フ）

一　河川ノ支川派川及河川ノ附屬物ノ認定

二　河川ニ關スル新築改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算

三　河川法第十七條第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可

四　内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分

五　河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法

六　河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七　河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却

第三條　左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分
二　河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其認可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得

第四條　河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一　河川ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト
二　寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト

第五條　河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一　河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト
二　補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

○河川法施行規程明治二十九年六月勅令第二百三十六號
枢密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條　內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條　府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ（三十二年勅令第二百八十六號ニテ以テ又ハ云々ノ八字ヲ加フ）

第三條　沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條　河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條　河川法第六條但書ニ依リ內務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條　河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條　河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入リ又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條　河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ効力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條　河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條　府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條　河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ効力ヲ有ス

第十二條　河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以內ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條　內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以內ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以內ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條　河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依ツテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

○河川臺帳明治二十九年十月勅令第三百三十一號

朕河川臺帳ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス

第二條　河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但河川ノ狀況ニ依リ內務大臣ハ其ノ記載事項ヲ省略セシムルコトヲ得

一　河川ノ敷地及堤外地ノ區域

二　河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ホスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置形狀

三　河川ニ影響ヲ及ホスヘキ水流及水面ノ種類、數量及位置形狀

第三條　府縣知事ハ其ノ調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市參事會及町村長ノ意見ヲ徵シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縱覽ニ供スヘシ但地元市町村ノ多數ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ縱覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ鄰接スル市町村ニ限リ併合縱覽セシムルコトヲ得（三十一年勅令第百六十七號ヲ以テ但書追加）

前項ノ場合ニ以テ利害關係者ハ縱覽期限經過後十五日以內ニ河川臺帳ニ對シ意見ヲ申立ルコトヲ得

第四條　府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ內務大臣ニ提出スヘシ

第五條　府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第六條　內務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ

第七條　內務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縱覽ニ供スルノ方法ヲ設ケ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其ノ更正ヲ爲シタルトキ亦同シ（三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ本項改正）

第八條　府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督署長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第九條　府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以內ニ其ノ旨ヲ地元市參事會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第十條　市參事會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管內ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ

市參事會及町村長ハ河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正シタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ公衆ノ請求アリタルトキハ之ヲ其ノ縱覽ニ供スヘシ（三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ本項改正）

第十一條　土木監督署長、市參事會及町村長ハ各其管內ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ

第十二條　第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村ノ負擔トス

○河川法第五條ニ依レル命令（明治三十二年十月勅令第四百四號）

朕河川法第五條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若クハ水面又ハ河川ハ內務大臣ノ認可ヲ經

テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條　前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條（敷地ヲ除ク）第四條第二項第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條　前項ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ內務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

○河川法第三十二條ノ費用補助方（明治三十二年四月勅令第百二十二號）

朕河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ關スル費用ノ內ヨリ補助ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若ハ除却ナルコト

二　工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體又ハ管理者タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト

第二條　河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其ノ工費ノ三分ノ二以內トス但シ他ノ工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　此ノ勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第四條　河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其ノ管理者不明ナルトキハ河川ニ關スル費用ノ內ヨリ其ノ工費ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得

第五條　府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此ノ勅令ノ規定ニ依リ補助又ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更又ハ廢止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

○河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分方（明治三十二年九月勅令第三百九十一號）

朕河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條　廢川敷地ハ府縣知事之ヲ告示スヘシ

第三條　廢川敷地ノ處分ハ府縣知事之ヲ行フ

第四條　廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條　府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第六條　府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條　河流ノ變更ニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第八條　廢川敷地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄付ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第九條　河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ寄付シタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十條　河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ賣渡シ又ハ收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ有償ニテ下付スルコトヲ得

第十一條　廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルトキハ宮內大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以內ニ內務大臣ニ通知シ內務大臣ハ府縣知事ヲシテ之ヲ編入セシムヘシ

河川法第四十四條但書又ハ本令ニ依リ廢川敷地ノ下付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期間內ニ府縣知事ニ申請スヘシ

第十二條　府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シタハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十三條　廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府縣ニ歸屬ス

第十四條　廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ內務大臣ノ認可ヲ經テ第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラス其處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得

○河川法第四十八條ニ依レル命令（明治三十年十月勅令第三百七十七號）

朕河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナ

ルヘキ區域ヲ謂フ

第二條　河川トナルヘキ區域竝ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條　河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條　此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四　河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ違背シタルトキ

六　公益ノ爲必要ナルトキ

第六條　此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條　前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條　河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條　河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得

第十一條　左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニ關シ内務大臣ノ認可

ヲ受クルコトヲ要ス

一　第七條ニ依リ建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セシトスルトキ

二　河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムルトキ

○河川法第五十八條ニ依ル罰則（明治三十三年四月勅令第百四十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二　河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三　許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

○

○砂防法（明治三十年三月法律第二十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法

第一章　總則

第二章　土地ノ制限及砂防設備

第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝收入等

第四章　警察、監督及强制手續

第五章　訴願及訴訟

第六章　附則

砂防法

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條　砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章　土地ノ制限及砂防設備

第四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲

ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條　地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條　砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條　他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條　行政廳ハ砂防工事ノ費負ヲナスコトヲ得ス

第十條　砂防工事ノ費負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ

公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條　砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條　第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條　砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル

者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第十九條　公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條　公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條　公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條　砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條　砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ連

接スル土地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條　此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條　砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條　砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章　警察、監督及强制手續

第二十九條　第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ効力ヲ停止シ

若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生ス
ル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ
生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條　地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏
員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス
地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令
ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手
續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地
方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之

ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務
大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大
臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナ
ルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシ
メタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條　此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此
ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程
ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ
法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於
テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシム
ルコトヲ得

第三十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分

ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ若スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章　訴願及訴訟

第四十二條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條　第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條　第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以內ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章　附則

第四十七條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

○砂防法施行規程明治三十年十月勅令第三百八十二號

朕砂防法施行規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

砂防法施行規程

第一條　内務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條　砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　砂防法第六條第一項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ依リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條　内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條　砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條　砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條　行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條　砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ効力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條　砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタル

モノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○砂防ニ關スル行政監督（明治三十一年一月勅令第十五號）

朕砂防ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條　左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但利害關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

一　砂防法第三條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

二　砂防法第四條ニ依ル準用

三　砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分

四　砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算

五　砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法

六　砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七　國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條　左ニ掲ル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

二　砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ障害物ノ除却

三　砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分

第四條　砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二　寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト

第五條　砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二　補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

○砂防法第十一條ノ地租其他公課減免方（明治三十二年八月勅令第三百七十四號）

朕砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條　本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條　本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第五條　本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

三十二年内務省令第九號ヲ以テ施行細則ヲ定ム

○

○災害土木費國庫補助規定 明治三十二年四月勅令第百六十號

朕災害土木費國庫補助規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

災害土木費國庫補助規定

第一條　府縣ノ災害土木費ニシテ其ノ地租年額ノ十分ノ三ヲ超過スルトキハ國庫ハ其ノ超過額ノ地租額ニ等シキ額ニ達スル迄ハ十分ノ四以内地租額ヲ超過スルトキハ其ノ超過ノ部分ニ對シテハ十分ノ五以内ヲ補助スルコトヲ得

第二條　二箇年以上引續キ地租額以上ノ災害土木費ヲ要スル災害アリタル府縣ニ對シテハ前條補助ノ歩合ニ依リ算出シタル補助額ノ十分ノ三以内ヲ增加スルコトヲ得

第三條　前二條ノ地租額ハ其ノ年一月一日ニ於ケル土地臺帳面記載ノ地租額ニ依ル

第四條　災害土木費ノ範圍及計算方法並郡市町村其ノ他公共團體ノ災害土木費負擔ニ關スル方法等ハ内務大臣之ヲ定ム

二十九年勅令第百六十七號ヲ以テ會計法ヲ臺灣ニ施行スヲ

○第八類　會計、官有財産

○會計法 明治二十二年二月法律第四號

沿革略記　明治十四年四月第三十三號達ヲ以テ會計法ヲ定ム●十五年一月第五號ヲ以テ前令ヲ改定ス●二十二年二月法律第四號ヲ以テ會計法ヲ制定ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條　租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヽ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章　豫算

第五條　歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條　歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二　其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一　豫備金

第二　豫備金

第一　豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二　豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條　毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　收入

第十條　租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徴收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徴收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章　支出

第十一條　毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條　國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條　國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條　國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一　國債ノ元利拂

第二　軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三　在外各廳ノ經費

第四　前項ノ外總テ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第五　運輸通信ノ不便ナル內國ノ地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第六　廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八　各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章　決算

第十六條　會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用

左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後增加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條　前條ノ總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一　各省決算報告書

第二　國債計算書

第三　特別會計計算書

第六章　期滿免除

第十八條　政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サヽルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條　政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章　歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條　豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ每年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條　誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルヽコトヲ得

第八章　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條　法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競爭

ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一　一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入又ハ借入ルヽトキ

第二　政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三　非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ付スル暇ナキトキ

第四　特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五　特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルヽトキ

第六　土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七　五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八　見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九　軍艦ヲ買入ルヽトキ

第十　軍馬ヲ買入ルヽトキ

第十一　試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルヽトキ

第十二　慈惠ノ爲ニ設立セル救育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

第十三　囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルヽトキ

第十四　政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條　軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章　出納官吏

第二十六條　政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第二十七條　前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス

第二十八條　現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條　仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章　雜則

第三十條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條　政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章　附則

第三十二條　本法ノ條項帝國議會ニ關渉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關渉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歳計ヨリ施行ス

第三十三條　本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各〻其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計規則明治二十二年四月勅令第六十號

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第一章　會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

第一條　歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一　納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二　隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三　隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條　歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一　公債ノ元利賞勵年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二　諸拂戻缺損補塡ハ其拂戻又ハ補塡ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三　俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四　廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ渉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五　前各項ニ揭クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條　毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ「八月三十一日」ヲ「七月三十一日」ト改ム）

第二章　豫算

第一款　總豫算

第四條　大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル說明ヲ付スヘシ

第五條　歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條　歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條　歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款　豫定經費要求書

第八條　各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要

求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ「六月三十日」ヲ「八月三十一日」ト改ム）

第九條　各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尚ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ」目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條　各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル說明及各款各項ノ說明ヲ付スヘシ

第三款　仕拂豫算

第十一條　各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ「大藏大臣ノ檢視ヲ受ク」ヘシ」ヲ「大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ」ト改ム）

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條　仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條改正）

第十三條　大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條改正）

第四款　歲入歲出現計書

第十四條　會計法第六條ニ揭クル歲入歲出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條　歲入歲出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歲入歲出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ「八月三十一日」ヲ「七月三十一日」ト改ム）

歲入ノ部

歲入豫算額

調定濟歲入額

收入濟歲入額

收入未濟歲入額

歲出ノ部

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

第五款　豫備金支出

第十六條　豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條　豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流

用スルコトヲ得ス

第十八條　第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作リ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二十一條　各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條　大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調製シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條　第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計檢査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條　豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作リ各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作リ之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲナスヘシ

第三章　收入

第二十五條　收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ（三十二年勅令第百二）

第二十六條　收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ（二十六年勅令第百十二號三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

第二十七條（號ヲ以テ條中削除）　金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ通知スヘシ（二十六年勅令第百十二號三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

第二十八條（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第二十九條（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第三十條　歲入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

第三十一條　歲入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ作リ之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ（仝上）

第三十一條ノ二　納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ編入スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ追加）

第四章　支出

第一款　仕拂命令

第三十二條　仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該

經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ適フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條　仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ番號ノ下「支出ノ目的」ノ五字及但ノ下「傳給諸恩給百勅年金賠償及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ストキ」ノ二十七字ヲ削ル）

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名（銀行ナレハ其名稱）前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條　仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條　仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ（二十六年勅令第百十二號三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

第三十六條　仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案內仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第三十七條（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第三十八條（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第三十九條　現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一　常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル內國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二　臨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限リハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三　各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以內ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條　會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一　前ニ發シタル仕拂命令金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二　前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條　現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條　會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メ

三發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條　仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル每ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條　各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款　仕拂命令ノ執行

第四十五條　金庫ハ案內仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ（三十三年勅令第百三十七號ヲ以テ改正）

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外每日其開庫時間內ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ但集合仕拂命令金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ル仕拂命令ニ對シテハ領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ但書追加）

第四十六條　左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一　案內仕拂命令ノ到著セサルトキ

第二　仕拂命令ト案內仕拂命令ト符合セサルトキ

第三　仕拂命令汚損シ案內仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條　各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ八月三十一日ヲ七月三十一日ト改ム）

第四十八條　前條ノ資金中年度經過後滿五箇年內ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府ヲ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第三款　計算報告

第四十九條　金庫出納役ハ每月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第五十條（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第五章　決算

第一款　總決算

第五十一條　歲入歲出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款　各省決算報告書及收入支出計算書（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第五十二條　各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歲入ヲ徵收スル官吏ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ每年度歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後五箇月以內ニ其歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加シ三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本項中改正）

仕拂命令官ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三款　國債計算書

第五十三條　國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條　國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二　當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

第三　最近五箇年度間ニ於ケル各種國債增減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款　特別會計計算書

第五十五條　特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以內ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條　特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　收入計算

第二　支出計算

第三　最近五箇年度間資金ノ增減

第四　最近五箇年度間損益ノ比較

第六章　定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款　定額繰越

第五十七條　各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作リ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本項及第二號ヲ改正ス）

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　繰越ヲ要スル項ノ定額

第二　右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第三　右定額ニ對シ仕拂ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四　右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條　會計法第二十一條ニ據リ年度內ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遲延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遲延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條　大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二款　過年度支出

第六十條　過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第六十一條　（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第六十二條　第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヽ外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル每項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款　定額戻入

第六十三條　仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第六十四條　金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第六十五條　各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ條中刪除）

第六十六條　（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第七章　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款　總則

第六十七條　各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項追加）

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ檢査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ調定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調査ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中ヲ改正ス）

第六十八條　前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ前條ノ下ニ第二項ノ三字ヲ加フ）

第六十九條　工事又ハ物品供給ノ競爭ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競爭者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項追加）

工事又ハ物品賣買ノ競爭ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中物品供給ヲ物品賣買ト改ム）

第七十條　前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一　競爭ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二　契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條　競爭ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ請負ノ下又ハ賣買ノ四字ヲ加フ）

第二款　競爭契約

第七十二條　競爭ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條　入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ掲示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條　前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　競爭入札ニ付スル事項

第二　契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三　競爭執行ノ場所日限及時刻

第四　入札ノ保證金額

第七十五條　各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競爭入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條　開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條　開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條　落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ

再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尚ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條　競爭ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競爭ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ請負ノ下「又ハ賣買貸借」ノ六字并ニ但書ヲ加フ）

第八十條　工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條　契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款　隨意契約

第八十二條　隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但書以下改正）

第八十三條　隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章　出納官吏

第八十四條　第一款　收入官吏ハ現金前渡ヲ受ケタル官吏（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

二十二年大蔵省令第十三號ヲ以テ出納官吏現金取扱規則ヲ定ム

第八十四條　出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但書改正）

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ追加）

第八十五條　各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其行爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルヽコトヲ得ス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ條中改正）

第八十六條　出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第八十七條　（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第八十八條　各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計檢査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條　前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ス責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作リ證憑書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計檢査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條　（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第九十一條　收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣檢査員ヲ命シテ之ヲ檢査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ檢査ヲ要セス（三十三年勅令第百二十七條ヲ以テ本項中削除）

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ檢査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第九十二條　前條ノ檢査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身檢査ヲ受ル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條　收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ檢査シタルトキハ其檢定書二通ヲ製シ檢査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ條中削除）

第九十四條　收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ハ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ檢査ノ方法アルニ拘ハラス金櫃及檢査ヲ執行スル場合ニ於テハ他公金ヲ併セテ檢査ヲ行フヘシ

第九十五條　（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本條削除）

第九十六條　（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ削除）

第九十七條　收入官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受ケル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算

書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後三箇月以内ニ歳入ヲ徴收スル官吏ニ送付シ歳入ヲ徴收スル官吏ハ其下檢査ヲ執行シ下檢査書ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

第九十八條　現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下檢査ヲ執行シ下檢査書ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十八條ノ二　分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計檢査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ（三十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條追加）

第九十九條　出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ「第九十五條」第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百條　出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲ爲スヘシ

第百一條　出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第百二條　會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計檢査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資產アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止ルモノトス（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中ヲ削除シ二十三年勅令第百二十七號ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第百三條　身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第百四條　身元保證ノ現金ハ大藏省「預金局」通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私書ヲ以テ登記ヲ受クヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ大藏大臣ヲ各省大臣ト改ム）

第百五條　會計檢査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サヽルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其

代償ヨリ損失金額ヲ差引シ剰餘アルトキハ出納官吏ニ返付スベシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ各省大臣ノ下ノ通知ニ依リ大藏大臣ヲ削ル）

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルヨトヲ能ハサル時ハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムベシ

第百六條　前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏可ノ徵收スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ保中削除）

第百七條　出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第百八條　出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サヽルトキハ其職務ヲ執ルヨトヲ得ス

第百九條　出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ增納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ヲ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ增納スヘシ期限ヲ過キ增納ヲ爲サヽルトキハ其職務ヲ取ルヨトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シタルトキハ補塡ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第百十條　出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計檢査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款　金庫出納役

第百十一條　會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中改正ス）

金庫出納役ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但遠隔不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キ時ハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ次項其他如ノ）

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調製シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第九章　帳簿

第百十二條　大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十三條　大藏省ハ歲入歲出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歲出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百十四條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

第百十五條　歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條　金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ條中改正）

第百十七條　（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除）

第百十八條　收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ（三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ條中改正）

第百十九條　各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計檢査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章　雜則

第百二十條　本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計檢査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計檢査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ（二十六年勅令第百十二號ヲ以テ條中改正）

第百二十一條　前條ノ外本規則ニ掲クル會計簿書仕拂命令領收證ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條　帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條　本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

本規則ト抵觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○歳入歳出豫算概定順序（二十二年三月閣令第十二號）

第一條　歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年閣令第二號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

第二條　歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ增減ノ理由ヲ説明スヘシ

第三條　各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年閣令第二號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

第四條　歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ增減ノ理由ヲ説明スヘシ

第五條　大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ（二十六年閣令第二號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

第六條　歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ增減ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條　内閣ニ於テハ前年度七月十五日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ（二十六年閣令第二號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

第八條　各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年閣令第二號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

第九條　歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條　明治三十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

○豫定經費算出概則（二十二年六月閣令第十九號）

豫定經費算出概則

第一條　經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第二條　經費中其給與ニ屬スルモノハ其六箇月分ノ給額ヲ以テ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ其一箇月分ノ費用ヲ以テ積算スヘシ

○當ルノ費用ヲ以テ積算スヘシ

第三條　一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各其據ル所ヲ示スヘシ

第四條　二箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第五條　給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時傭入及解傭ヲナス人員ハ前次年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ

第六條　物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前次年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

○箇數ナキモノハ前次年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第七條　國債償還ノ金額（定期ノモノヲ除ク）ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手數料ハ定規ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第八條　常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ

第九條　法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ

第十條　前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適當ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

○特別會計ノ第一豫備金支出方（明治三十年四月勅令第百十六號）

朕特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作リ大藏大臣ニ通知シ

大藏大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

○

○在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續省略方明治三十年三月勅令第五十八號

朕在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續ヲ省略スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　公使館領事館及貿易事務館收入官吏ノ領收シタル現金ヲ金庫ニ拂込ムヘキ期限及收入報告調製ノ期限ハ每三箇月一回若ハ數回ト爲スコトヲ得

第二條　公使館領事館及貿易事務館出納官吏ノ仕拂ヒタル現金ノ計算書調製及其ノ證憑書類送付ノ期限ハ外務大臣ニ於テ每三箇月一回若ハ數回ト爲スコトヲ得

第三條　公使館領事館及貿易事務館ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スニ當リ隨意契約ニ依ルトキハ一口二千圓未滿ニ限リ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

○物品會計規則明治二十二年六月勅令第八十四號

朕物品會計規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

物品會計規則

第一條　此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動產ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

第二條　物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條　物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條　物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條　總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條　物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條　各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條　物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗費拂亡失毀損生產ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生產及ヒ其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條　常時出納ヲナサヽル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其次調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條　在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條　第十一條第十二條ノ調書ニハ檢査官吏及檢査ヲ受ケタル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條　（三十四年勅令第七十七號ヲ以テ削除）

第十五條　物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本廳大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ヲ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條　前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲ行フヘシ

第十七條　各省ハ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添付シテ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十八條　常時出納ヲナサヽル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計檢査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條　物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條　物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ム

第二十一條　官吏ハ執務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條　此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○政府ノ工事又ハ物件ハ賣買貸借ニ關スル隨意契約方（明治二十三年九月勅令第百九十三號）廢政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競爭ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尚ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競爭ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テノ隨意契約（明治二十四年七月勅令第七十五號）廢外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テノ隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競爭ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

○工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物其ノ他附屬物材料素品ニ關スル隨意契約明治二十九年七月勅令第二百六十八號

朕工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ府縣郡市町村及公共組合ヨリ買上ケ借入レ又ハ官有ノ機械器具鐵軌車輛船舶及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ工事ノ爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ貸渡ストキハ競爭ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

○北海道廳直營事業ニ使用スル職工人夫ノ雇傭ハ隨意契約明治二十九年八月勅令第二百八十號

朕北海道廳直營事業ニ使用スル職工人夫ノ雇傭ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ施行スル築港運河架橋及道路ニ關スル工事ヲ競爭ニ付スルモ入札者ナキ爲メ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尚ホ豫定價格ノ制限ニ達セサル爲メ之ヲ北海道廳ノ直營事業ト爲シタルトキ之ニ使用スル職工人夫ノ雇傭ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

本年勅令第二百八號ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫ノ雇傭ニモ適用ス

○痘苗製造所ニ於テ犢牛ノ購入隨意契約明治二十九年十一月勅令第三百七十三號

朕痘苗製造所ニ於テ隨意契約ニ依リ犢牛ノ購入ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京及大阪痘苗製造所ニ於テ痘苗製造ニ要スル犢牛ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○工事ノ爲メ買收又ハ收用シタル土地ヲ隨意契約ヲ以テ貸付方明治三十年二月勅令第十五號

朕工事ノ爲メ買收又ハ收用シタル土地貸付ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買收又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

○北海道森林ノ產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳直接從事ノ工事材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約明治三十年二月勅令第二十一號

朕公益事業ノ工事ニ要スル北海道森林ノ主副產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル各種工事ノ材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之

ヲ公布セシム

公益事業ノ工事ニ要スル北海道森林ノ主副產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル各種工事ノ材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○北海道鐵道部ニ於テ鐵道工事ニ要スル用品ヲ買入借入又ハ賣渡貸渡隨意契約明治三十二年六月勅令第三百五號

朕明治二十九年勅令第百八十八號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道鐵道部ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其ノ他鐵道用品ヲ官廳若ハ私設鐵道會社ヨリ買入借入又ハ官廳若ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○北海道道路橋梁排水工事隨意契約明治三十一年三月勅令第三十七號

朕北海道殖民地ニ於ケル道路橋梁排水ノ工事請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道ニ於テ殖民地トシテ選定シタル區域內ニ於ケル道路橋梁排水工事ハ其ノ區域內ノ移住民二十人以上ノ共同請負ニ限リ隨意契約ヲ以テ請負ハシムルコトヲ得

○埋藏物ヲ宮內省ニ讓渡ストキ隨意契約明治三十二年十一月勅令第四百二十四號

朕遺失物法第十三條第二項ニ依ル埋藏物ヲ宮內省ニ讓渡ストキハ隨意契約ニ依ル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法第十三條第二項ニ依リ國庫ニ歸屬シタル埋藏物ヲ宮內省ニ讓渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○貨幣鑄造ニ要スル地金買入方明治二十三年六月勅令第百四號

朕貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣鑄造ニ要スル地金銀ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此場合ニ於テハ競爭ニ付セサルコトヲ得（三十一年勅令第九十九ヲ號以テ銅白銅ノ三字ヲ削ル）

○府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事隨意契約明治二十六年五月勅令第五十一號

朕府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府工事ニ係ル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事ニシテ其分割施行ヲ爲スヲ不利トスル場合ニ於テ政府ハ其工事ノ受負又ハ之ニ要スル物品ノ供給ヲ隨意契約ヲ以テ府縣市町村又ハ組合工事ノ受負人又ハ物品供給者ニ命スルコトヲ得

○官有ノ建物及其ノ附屬物ノ賣渡貸渡ニ關スル隨意契約明治二十六年十二月勅令第二百二十八號

朕官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコ

トヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競爭ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借方明治二十七年四月勅令第四十號

朕在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外各廳ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○葉煙草專賣所ニ於テ葉煙草ノ賣渡ヲ爲ストキ契約書省略方明治三十一年二月勅令第二十五號

朕葉煙草專賣所ニ於テ葉煙草ノ賣渡ヲ爲ストキ契約書省略ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

葉煙草專賣所ニ於テ葉煙草ノ賣渡ヲ爲ストキハ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

○政府ニ於テ輸入ノ爲葉煙草ヲ買入ルトキ隨意契約明治三十二年六月勅令第二百二十一號

朕政府ニ於テ輸入ノ爲葉煙草ヲ買入ルトキハ競爭ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ輸入ノ爲葉煙草ヲ買入ルトキハ競爭ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

○政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入隨意契約明治二十一年十一月勅令第四百三十七號

朕政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル物件隨意契約明治二十七年六月勅令第七十六號

朕軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ノ貸付及賣渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ハ隨意契約ヲ以テ貸付ケ又ハ賣渡スコトヲ得

○兵營及葉煙草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約明治二十九年十月勅令第三百十七號

朕兵營「及葉煙草取扱所」ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件

ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵營「及葉煙草取扱所」ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○北海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事隨意契約明治三十一年三月勅令第三十八號

朕北海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事ハ運輸交通不便ノ地ニ建設スルモノニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○陸軍用地ノ生産物ヲ賣渡ストキ隨意契約明治三十二年五月勅令第二百六號

朕陸軍用地ノ生産物ヲ賣渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍用地ニ産スル薪炭材下草秣小柴ヲ從來ノ慣行ニ依リ地元人民ニ賣渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○海軍炭礦採掘ノ請負及粗惡炭並粉炭拂下隨意契約明治三十二年六月勅令第二百二十九號

朕海軍炭礦採掘ノ請負及粗惡炭並粉炭拂下ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍炭礦採掘ノ請負及採掘ヨリ生スル粗惡炭並ニ粉炭ノ拂下ハ競爭ニ付セズ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○札幌農學校資金ニ屬スル北海道ノ土地貸付隨意契約明治二十八年七月勅令第百四號

朕札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ヲ貸付スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ノ貸付ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　一人ニ付宅地ノ面積四百五坪以内ヲ貸付スルトキ

二　一人ニ付耕地及未開地ノ面積三萬坪以内ヲ貸付スルトキ

未開地ヲ貸付スル場合ニ於テハ貸付料ヲ徵收セサルコトヲ得

○北海道廳ニ於テ種畜貸渡ノ隨意契約明治二十四年七月勅令第百六十三號

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ殖産奬勵ニ要スル種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡隨意契約明治二十九年五月勅令第二百三十四號

朕農商務省ニ於テ隨意契約ニ依リ馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○萬國博覽會用物件賣買貸借及工事隨意契約明治二十九年七月勅令第二百六十六號

朕佛國博覽會ニ關スル物件ノ賣買貸借及工事請負ヲ隨意契約ニ依リ處分スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十三年佛國巴里府ニ於テ開設スル萬國博覽會ニ關スル物件ノ賣買貸借及工事請負ハ隨意契約ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得

○製鐵所ニ於テ物件ヲ購入スル隨意契約明治二十九年十二月勅令第三百七十八號

朕製鐵所ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ購入スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所ニ於テ製鐵事業設備完了ニ至ル迄ニ必要トスル器具機械其ノ他物件ヲ外國ニ於テ購入スルトキ又ハ內國ニ於テ製鐵原料ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○製鐵所用地地先浚渫及荷揚場設置工事請負ノ隨意契約明治三十二年二月勅令第二十五號

朕製鐵所用地地先浚渫及荷揚設置工事請負ノ隨意契約ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所創立費支拂ニ屬スル用地地先浚渫及荷揚場設置工事ニシテ若松築港工事ニ關聯スル工事ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並不用生產物拂下隨意契約明治三十三年二月勅令第三十九號

朕製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並不用生產物拂下ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並採掘ヨリ生スル不用生產物拂下ハ本令發布ノ日ヨリ三箇年間ニ限リ競爭ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

○國有林野產物ヲ隨意契約ヲ以テ賣拂方明治三十二年八月勅令第三百六十三號

朕國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野產物ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二　非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

三　從來ノ慣行ニ因リ薪炭材又ハ副產物ヲ地元人民ニ賣拂フトキ

四　委託林野ノ產物ヲ受托者ニ賣拂フトキ

五　部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ

六　社寺ノ建築營繕ノ材料トシテ社寺上地ノ森林ノ產物ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

七　國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ產物買受人ニ其ノ事業ニ必要ナル產物ヲ賣拂フトキ

八　採取ノ季節アル副產物ヲ賣拂フトキ

九　鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ

十　國有林野法第三條、第八條、第十一條及第十五條ニ依リ組換、賣拂、貸付又ハ讓與ヲ爲シタル林野ノ產物ヲ其ノ土地ノ管理者、買受人、借受人又ハ讓受人ニ賣拂フトキ

十一　民地官木林ノ產物ヲ其ノ土地ノ所有者ニ賣拂フトキ

十二　建築其ノ他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣拂フトキ

十三　見積價格三百圓ヲ超エサル產物ヲ賣拂フトキ

附則

官有森林原野及產物特別處分規則ハ之ヲ廢止ス

○政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭並種苗供給ノ受負隨意契約明治三十二年十月勅令第四百十三號

朕政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭並種苗供給ノ受負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭並種苗供給ノ受負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○遞信省ニ於テ鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負隨意契約明治二十九年五月勅令第二百八號

朕遞信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ニ關スル隨意契約明治二十九年六月勅令第二百四十號

朕官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル

ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道及私設鐵道ノ連絡營業ノ爲メ必要アル場合ニ於テ官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受ルトキ隨意契約明治二十九年十月勅令第三百五十四號

朕遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○遞信省ニ於テ直接ニ從事スル航路標識工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負隨意契約明治三十三年十二月勅令第四百六十號

朕遞信省ニ於テ直接ニ從事スル航路標識工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省ニ於テ直接ニ從事スル航路標識工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○鐵道作業局事業用品賣買貸借隨意契約明治三十一年七月勅令第百七十四號

朕明治二十三年勅令第二百七十七號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道作業局ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其ノ他鐵道用品ヲ官廳若ハ私設鐵道會社ヨリ買入借入又ハ官廳若ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○政府ニ於テ直接ニ從事スル官設鐵道工事一部ノ請負隨意契約明治三十二年八月勅令第三百七十五號

朕政府ニ於テ直接ニ從事スル官設鐵道工事一部ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ直接ニ從事スル官設鐵道工事一部ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ之ヲ競爭ニ付スル爲關聯工事ヲ中止セサルヲ得サル場合ニ限ルモノトス

○

○專賣局作業會計規則明治三十三年二月勅令第二十號

朕專賣局作業會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

專賣局作業會計規則

第一條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日迄ニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　所管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價額增減表ヲ調製シ歲入歲出ノ豫定計算書ニ添附スヘシ

第三條　歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度十二月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲每年度歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以內ニ其ノ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ（三十三年勅令第百三十號ヲ以テ確定ヲ徵收ニ改ム）

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲每月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第四條　歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣之ヲ專賣局長及專賣支局長ニ命シテ施行セシムヘシ

第五條　專賣局長又ハ專賣支局長ハ歲出ヲ支出スル爲金庫ニ向テ支拂請求書ヲ發スヘシ

第六條　仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ葉煙草ノ賠償及購買費、外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費及支部局ノ經費ニ限リ專賣局又ハ專賣支局ノ出納官吏ニ現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

第七條　各年度ノ歲出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ每年度三月三十一日限リトス

仕拂請求書發行及取扱ノ手續ハ仕拂命令ノ例ニ依ル

第八條　各年度ニ屬スル定額戾入ヲ爲スハ每年度三月三十一日限リトス

第九條　每年度內ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度內ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ明治三十年勅令第三百七十五號ニ依リ延納ヲ許可シタル葉煙草ノ代金ニ限リ翌年度七月三十一日迄ハ當該年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第十條　每年度內ニ仕拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度內ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未濟トシテ順次翌年度ニ繰越シ當該年度經過後滿五箇年內ハ支出ノ請求アル每ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス

第十一條　每年度內ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未濟トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度ニ繰越シ仕拂ノ請求アル每ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第十二條　前條ノ仕拂未濟金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免レタルトキハ其ノ期滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第十三條　仕拂請求書ノ執行ニ關シテハ仕拂命令執行ノ例ニ依ル

第十四條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ其徴收簿ノ結果ニヨリ毎月徴收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ專賣局ニ送付スヘシ（三十三年勅令第百三十號ヲ以テ改ム）

專賣局ハ作業全部ノ毎月徴收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十五條　金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ

第十六條　資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第十七條　資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

一　土地ハ近鄰地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近鄰ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル

二　建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル

三　葉煙草ハ賠償又ハ購買價格ニ依ル其ノ沒收等ニ係ルモノハ其ノ比準價格ニ依ル

第十八條　土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ

第十九條　建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其ノ期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其ノ修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第二十條　前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第二十一條　毎年度ノ終リニ現在スル葉煙草ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少スルトキハ當時ノ賠償又ハ購買價格ニ比準シテ改定スヘシ

第二十二條　歳入ノ收入濟額、收入未濟額、據置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高、總葉煙草ノ價格、總備品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出ノ支出濟額、支出未濟額、據置運轉資本額、賣拂代價收入濟物品ノ價格、賣拂代價收入未濟物品ノ價格、損失ニ歸シタル物品ノ價格ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アリタルトキハ作業ノ益金トシテ其ノ事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第二十三條　大藏省ハ專賣局作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、支出濟額ヲ登記スヘシ

第二十四條　專賣局ハ日記簿、原簿、補助簿ヲ備ヘ其ノ事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第二十五條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ（三十三年勅令第百三十號ヲ以テ改正）

第二十六條　專賣局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第二十七條　金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、仕拂請求書受領濟額ヲ登記スヘシ

第二十八條　此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

○

○作業會計法（明治二十三年三月法律第十七號）

朕作業會計法ヲ裁可シ茲ニ公布セシム

作業會計法

第一條　左ノ作業所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム（三十年法律第八號ヲ以テ本項中ヲ改正ス）

第一　造幣局

第二　印刷局

第三　製鐵所（三十二年法律第十二號ヲ以テ改正）

第四　電信燈器用品製造所

第五　廣島鑛山

第六　專賣局（三十二年法律第三十號ヲ以テ追加）

第二條　各作業所ニ於テ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地建物軌道其他築造道路船舶機械永遠保存品其重要ナル器具ヲ以テ固定資本トナシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

製鐵所据置運轉資本ハ四百五拾萬圓トシ漸次一般會計ヨリ繰入ス（三十二年法律第十二號ヲ以テ本項追加）

專賣局据置運轉資本ハ明治三十三年四月一日現在ノ葉煙草專賣資金ヲ以テ之ニ充テ漸次增加シテ八百萬圓トス（三十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加）

第三條　各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額內ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第四條　固定資本ノ維持修理及補充ハ作業所特別會計歲入ヲ以テ支辨スヘシ

第五條　作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第六條　政府ハ每年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條　各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關渉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○

○官設鐵道會計法（明治二十三年三月法律第二十號）

朕官設鐵道會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道會計法

第一條　鐵道事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ營業上ノ收入及其附屬雜收入ハ鐵道事業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　鐵道事業ノ爲メ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地軌道車輛停車場工場家屋機械其他重要ナル器具ハ其固定資本トシ從來ノ流動資本ハ其据置運轉資本トス

第三條　鐵道營業ニ要スル費用固定資本ノ維持修理及補充費竝ニ損失金ヲ鐵道事業ノ歲出トス

二十一年法律第三號ヲ以テ本法ハ北海道官設鐵道ニハ適用セス

第四條　鐵道事業ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スベシ

第五條　政府ハ毎年鐵道事業ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第六條　鐵道事業ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第七條　災害事變ニ因リ鐵道財産ニ大破損ヲ生シ豫算定額ヲ以テ修理スルニ足ラサル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ鐵道事業ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得

第八條　鐵道事業ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關渉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○作業及鐵道會計規則（明治二十三年三月勅令第三十三號）

朕作業及鐵道會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

作業及鐵道會計規則

第一章　歳入歳出

第一條　左ノ諸收入ヲ以テ作業所ノ歳入トス

第一　作業上ノ收入

第二　附屬雜收入

第二條　造幣局、印刷局、製鐵所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス（三十二年勅令第百九號ヲ以テ條中改正）

第一　事務員技術員ノ俸給諸給旅費（三十年勅令第百二十六號ヲ以テ追加シ第二以下順次繰下ク）

第二　事務所費（三十年勅令第百二十六號ヲ以テ改正）

第三　職工人夫ニ給スル諸費

第四　作業用器具機械ノ維持修理及補充費

第五　材料素品購入代

第六　動力費

第七　作業場用備品消耗品費

第八　建物築造道路船舶ノ維持修理及補充費

第九　損失金

第三條　東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス

第一　職工人夫ニ給スル諸費

第二　作業用器具機械ノ維持修理及補充費

第三　材料素品購入代

第四　機械運轉用品購入代

第五　作業場用備品消耗品費
第六　損失金
第四條　千住製絨所ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス
第一　事務員技術員ノ俸給諸給旅費
第二　事務所費
第三　職工人夫ニ給スル諸費
第四　作業用器具機械ノ維持修理及補充費
第五　材料素品購入代
第六　機械運轉用品購入代
第七　作業場用備品消耗品費
第八　生産品販賣諸費
第九　土地建物ノ維持修理費
第十　損失金
第五條　鐵道事業ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス
第一　營業ニ從事スル職員ノ俸給諸給旅費
第二　職工人夫ニ給スル諸費
第三　鐵道築造物建物車輛器具機械ノ維持修理及補充費

第四　材料素品購入代
第五　汽車及機械運轉用品購入代
第六　營業事務所停車場機械場客車用備品消耗品費
第七　損害賠償金
第八　訴訟費
第九　手數料保險料借料廣告料雜金外國注文品監査費其他營業上ノ雜費
第十　運輸收入割戻金
第十一　損失金

第二章　豫算決算

第六條　歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ「六月卅日」ヲ「八月卅一日」ト改ム）
第七條　歳入歳出ノ豫定計算書ハ科目ヲ分チ成ルヘク歳入ノ性質歳出ノ用途ヲ明示スヘシ
第八條　所管大臣ハ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格增減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ
第九條　歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入徴收額計算書ヲ調製シ證

憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以內ニ其歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加ス三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ確定ヲ徵收ニ改ム）

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ每月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三章　收入支出

第十條　歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣各作業事務長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

各省大臣ハ作業支部局長ヲシテ歲出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ

仕拂豫算ニ關スル規定ハ會計規則第十一條第十二條第十三條ニ依ルヘシ

第十一條　豫備費ノ支出ハ會計規則第十九條第二十條第二十四條ニ依ルヘシ

第十二條　作業所ノ收入官吏ハ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ收入ヲ取扱フヘシ（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ條中刪除）

第十三條　作業所ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此仕拂元受高ヲ超過スルヲ得ス

第十四條　作業事務長又ハ作業支部局長ハ歲出ヲ支出スル爲メ金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第十五條　仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲ニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルヲ得ス但支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲナス經費外國ニ於テ仕拂ヲナス經費職工人夫ノ給料諸手當ハ仕拂請求書ヲ發シ主任ノ官吏又ハ外國派出ノ官吏ヲ仕拂官吏トシテ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得（三十年勅令第二百三十號ヲ以テ但書中ヲ削ル）

第十六條　仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ適フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤヲ調査スヘシ

第十七條　仕拂請求書ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂ヲ請求スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書ヲ發シ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ルコトヲ得（二十六年勅令第二百二號ヲ以テ條中改正）

現金前渡ノ仕拂請求書ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名前渡ヲナスヘキ金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ（二十六年勅令第二百二號ヲ以テ條中刪除）

第十八條　仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル（二十六年勅令第二百二號ヲ以テ條中刪除）

第十九條　各年度ノ歲出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ每年度三月三十一日ヲ限リトス

第十九條ノ二　定額戻入ニ關スル規定ハ會計規則第六十三條第六十四條ノ例ニ依ル（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ追加）

第二十條　現金前渡ヲ受タル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十一條　金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ（三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ本項中改正）

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絶スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正）

第二十二條　毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十三條　毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス（二十六年勅令第二百二十四號中ヲ以テ改正ス）（十四號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第二十四條　毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未濟トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度ヘ繰越シ第十八條ノ規程ニ依リ仕拂ヲナスヘシ

第二十五條　前條ノ仕拂未濟金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免レタルトキハ其期滿免除

トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十六條　歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收報告書ヲ翌月七日迄ニ作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付スヘシ（三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ改正）

第二十七條　作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ハ作業全部ノ徵收合計表ヲ調製シ本局及支局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ノ徵收報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（仝上）

第二十八條　金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正）

第二十九條（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ刪除）

第四章　資本

第三十條　資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第三十一條　資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

一　土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

二　建物鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均

ニ依ル

三　材料素品器械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

四　生產品ハ生產費ニ依ル但賣買ノ契約濟トナリタルモノハ其賣渡代價ニ依ル

第三十二條　土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ

第三十三條　公衆ノ用ニ供スル鐵道ノ固定資本ハ毎五年ニ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ改定スヘシ

第三十四條　建物公衆ノ用ニ供セサル鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第三十五條　前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第三十六條　材料素品機械ノ運轉用品ノ年度內未消費ニ屬スルモノハ市價ノ低落又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減スルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十七條　生產品ノ年度內未販賣ニ屬スルモノ需用ノ變動生產法ノ改良又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減シ實際ノ市價生產費以下トナルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價又ハ當年度ノ生產費ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十八條　材料素品機械ノ運轉用品生產品其他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失

トシ其價格ヲ削除シテ不用物品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第五章　受拂勘定

第三十九條　受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一　歲入ノ收入濟額

第二　收入未濟額

第三　据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高

第四　總生產品ノ價格

第五　總材料及素品ノ價格

第六　總機械運轉用品ノ價格

第七　作業場用總備品ノ價格

第八　代價支出濟未收物品ノ價額

第四十條　拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一　歲出ノ支出濟額（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ「支出調定濟額」ヲ「支出濟額」ト改ム）

第二　支出未濟額

第三　据置運轉資本額

第四　賣拂代價收入濟物品ノ價格

第五　賣拂代價收入未濟既出物品ノ價格
第六　消費シタル材料及素品ノ價格
第七　消費シタル機械運轉用品ノ價格
第八　損失ニ歸シタル物品ノ價格
第九　損失金

第四十一條　作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第六章　工事及物件ノ賣買貸借

第四十二條　工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章　出納官吏

第四十三條　出納官吏ニ關スル規則ハ第四十四條ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル

第四十四條　（三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ本條削除）

第八章　帳簿

第四十五條　大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額歳出ノ豫算額仕拂元受高支出濟額ヲ登記スヘシ（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ條中削除）

第四十六條　作業所ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ其事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第四十七條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ（三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ改正）

第四十八條　金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額支拂請求書受領濟額ヲ登記シ又支拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ（三十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正）

第四十九條　收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ（三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ本條中削除）

第九章　雜則

第五十條　本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計檢査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計檢査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ（二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ出納官吏ヲ當該官吏ト改ム）

第五十一條　前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第五十二條　此規則ニ於テ作業所トハ造幣局、印刷局、製鐵所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山、東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製絨所及鐵道ヲ謂フ（三十二年勅令第百九號ヲ以テ條中改正）

第五十三條　此規則ニ於テ作業事務長トハ「鐵道局長」、造幣局長、印刷局事務長、製鐵所長官、東京砲兵工廠提理、大坂砲兵工廠提理、千住製絨所長ヲ謂フ（二十六年勅令第二百二十四號三十二年勅令第百九號ヲ以テ條中改正）

電信燈臺用品製造所及廣島鑛山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務長トス

第五十四條　本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○官設鐵道用品資金會計法（明治二十六年一月 法律第二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官設鐵道用品資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品資金會計法

第一條　鐵道用品ヲ購入貯藏シ官設鐵道運輸營業並ニ建設事業ノ需用ニ應スル爲メ官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　官設鐵道用品資金ハ官設鐵道會計ノ據置運轉資本ノ内金百八十萬圓ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　官設鐵道用品資金ヲ以テ購入貯藏シタル物品ノ製作改製及修理ノ費用ハ該資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　官設鐵道用品資金會計ニ屬スル諸品ノ賣拂價格ハ其ノ自然ノ損減歩合、製作、改製及修理費並ニ其ノ附屬費用及購入ニ附隨スル諸費ヲ其ノ購入原價ニ加算シテ之ヲ定ムヘシ

第五條　官設鐵道用品資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條　政府ハ毎年官設鐵道用品資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條　官設鐵道用品資金特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　本法ハ明治二十七年度ヨリ施行ス

○官設鐵道用品資金會計規則（明治二十六年七月 勅令第七十一號）

朕官設鐵道用品資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品資金會計規則

第一條　官設鐵道用品資金ハ貯藏物品賣拂代金並ニ附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ物品購入代製作費並ニ製費修理費並ニ附屬諸費ヲ以テ歳出トス（二十七年勅令第九十一號ヲ以テ條中改正）

第二條　官設鐵道用品資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條　歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條　收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル

第五條　貯藏物品ノ購入原價ニシテ自然ノ腐朽又ハ毀損變質減量等ニ依リ其價格減少シタルトキハ毎年度ノ終リニ於テ之ヲ改定スヘシ

第六條　貯藏物品ノ損減歩合ハ自然ノ腐朽又ハ不用ニ歸シタルニ依リ生シタル既往ノ損減高及亡失毀損變質減量等ヲ參酌シテ之ヲ定ムルモノトス

第七條　受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一　歳入ノ收入濟額

第二　收入未濟額

第三　資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四　總貯藏物品ノ價格
第五　代價支出濟未收物品ノ價格
第八條　受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ
第一　歳出ノ支出濟額（二十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ改正）
第二　支出未濟額
第三　資金額
第四　前受金
第五　代價收入濟物品ノ價格
第六　代價收入未濟既出物品ノ價格
第七　損失ニ歸シタル物品ノ價格
第八　損失金
第九條　受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ
第十條　物品ノ買入不用物品賣拂ノ規程ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル
第十一條　出納官吏ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル
第十二條　帳簿ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル
第十三條　本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計檢査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ル（二十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中改正）
第十四條　前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ
第十五條　本規則ハ明治二十七年度ヨリ施行ス

○官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ルヽトキ前金拂概算渡方（明治二十九年二月法律第二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ルヽトキ前金拂概算渡ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルヽトキハ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

○

○北海道官設鐵道用品資金會計法（明治三十二年二月法律第十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道官設鐵道用品資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道官設鐵道用品資金會計法

第一條　北海道官設鐵道ノ用品ヲ購入貯藏シ其ノ運輸營業並建設事業ノ需用ニ應スル爲北海道官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　北海道官設鐵道用品資金ハ五拾萬圓トシ必要ニ應シ漸次一般會計ヨリ繰入ス

第三條　北海道官設鐵道用品資金ノ會計ニ關シテハ明治二十六年法律第二號官設鐵道用品資金會計

法ヲ適用ス

附則

此ノ法律ハ明治三十二度度ヨリ施行ス

○北海道官設鐵道用品ヲ北海道官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルヽトキ前金拂概算渡方（明治三十二年十二月法律第百八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道官設鐵道用品買入手續ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道官設鐵道用品ヲ北海道官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルルトキハ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

○

○事業公債及鐵道公債特別會計法（明治三十二年二月法律第十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル事業公債及鐵道公債特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

事業公債及鐵道公債特別會計法

第一條　鐵道敷設法、事業公債條例、北海道鐵道敷設法及臺灣事業公債法ニ依ル公債金ノ會計ハ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ（三十二年法律第七十八號ヲ以テ改正）

第二條　公債募集金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ拂出スヘシ

但シ償金特別會計資金ノ一時繰替金ヲ返償スル場合ニハ直ニ償金特別會計ノ資金ニ繰入スヘシ

第三條　公債募集金ノ每年度內ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

第四條　公債ヲ以テ支辨スル事業完了ノ上公債募集金ニ剩餘アルトキハ一般ノ歲入ニ繰入スヘシ

第五條　政府ハ每年公債特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調整シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

第六條　本法ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

第七條　鐵道公債會計法ハ明治三十一年度限リ廢止ス

○

○貨幣整理資金特別會計法（明治三十年三月法律第十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貨幣整理資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣整理資金特別會計法

第一條　一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲貨幣整理資金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條　明治三十年以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條　交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四條　每會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條　政府ハ每年貨幣整理資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○貨幣整理資金特別會計規則（明治三十年四月勅令第百二十八號）

朕貨幣整理資金特別會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣整理資金特別會計規則

第一條　貨幣整理資金ハ地金資拂代ヲ以テ歳入トシ貨幣交換金、貨幣交換及地金資拂ニ伴フ諸費ヲ似テ歳出トス（三十年勅令第四百十九號ヲ以テ條中ヲ改正ス　三十一年勅令第七十號ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第二條　歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ帝國議會ニ提出ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　各年度ニ於テ歳入ヲ收入シ歳出ノ仕拂命令ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス

第四條　大藏大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條　受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一　歳入ノ收入濟額

第二　收入未濟額

第三　資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四　造幣局作業益金ノ受入額

第五　總地金ノ價格

第六條　受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一　歳出ノ支出濟額

第二　資金額

第三　代價收入濟地金ノ價格

第四　代價收入未濟地金ノ價格

第七條　受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ資金ニ編入シ不足ヲ生スルトキハ資金ノ減額ト爲スヘシ

第八條　此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ一般會計規則ノ各條項ヲ適用ス

○紙幣交換基金特別會計法（明治二十三年三月法律第二十四號）

朕紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

紙幣交換基金特別會計法

第一條　從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スル爲メ紙幣交換基金ヲ置キ漸次之ヲ交換セシム

第二條　政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限リ日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ前項ノ交換基金ニ組入ルヘシ（本項追加）

第三條　紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ（二十三年法律第五十六號ヲ以テ

第四條　毎年度ニ於テ紙幣交換基金ノ交換未濟トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第五條　紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○

○鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法（明治二十三年三月法律第二十五號）

朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第一條　國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條　毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未濟トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第三條　鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條　本法ハ平穩鎖店ヲ爲シ又ハ營業滿期ニ至リタル國立銀行紙幣竝ニ營業滿期前ニ特別處分ヲ爲シタル國立銀行紙幣交換基金ノ會計ニモ之ヲ適用ス（二十八年法律第十六號ヲ以テ本條追加　二十九年法律第十二號ヲ以テ條中改正）

○整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程（明治二十三年四月勅令第六十八號）

朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規定ハ左ニ揭クルモノヽ外總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

第一　大藏大臣ハ毎年公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出豫定計算書ヲ調製シ歳入歳出總決算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第二　大藏大臣ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出決定計算書ヲ調製シ歳入歳出總決算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第三　紙幣交換基金ハ仕拂命令ヲ發シテ現金ヲ日本銀行ニ前渡スルコトヲ得此場合ニ於ケル仕拂ノ證明ハ明治二十三年勅令第二十號ニ準據スヘシ

第四　毎年度ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ毎年三月三十一日ヲ限リトス

第五　收入官吏ノ會計檢査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス（二十六年勅令第二百五號ヲ以テ本文中刪除）

第六　大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

○

○陸軍作業會計法明治二十三年三月法律第十八號

朕陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍作業會計法

第一條　東京砲兵工廠大阪砲兵工廠及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來增加スル所ノ機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

千住製絨所ニ於テハ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地建物機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

第三條　東京及大阪砲兵工廠ハ職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費竝ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス

千住製絨所ハ俸給諸給旅費廳費生產品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物ノ維持修理費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費竝ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス

第四條　各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額內ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第五條　作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第六條　政府ハ每年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條　豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歲出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第八條　各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ルヽトキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條　各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○

○陸軍兵備品會計規則明治二十四年三月勅令第二十二號

朕陸軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵備品會計規則

第一條　陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス

第二條　出師準備品トハ左ニ揭クル諸品ヲ云フ

一　兵器彈藥及各兵器具竝材料

二　秘密圖書
三　馬匹及戰時之ニ要スル器具
四　戰用糧秣及炊爨具
五　戰用被服及裁縫具
六　戰用衛生材料
七　戰用獸醫材料
八　戰用天幕
九　陣中事務用品

第三條　通常兵備品トハ左ニ揭クル諸品ヲ云フ
一　圖書
二　糧秣
三　被服及裁縫具
四　衛生材料
五　獸醫材料
六　兵營備付陣營具

第四條　出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第五條　出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス

第六條　出師準備品ハ「近衛都督」各師團長及當該長官之ヲ管理ス

第七條　出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス

第八條　通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス

第九條　通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル

第十條　出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○

○海軍兵備品會計規則（明治二十三年三月勅令第六十四號）

朕海軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵備品會計規則

第一條　海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ
一　兵器、彈藥、水雷及其附屬品
二　秘密圖書、測器海圖
三　艦營需品
四　被服、糧食
五　治療品

第二條　海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル

第三條　（二十六年勅令第四十七號ヲ以テ削除）

第四條　物品會計規則第十五條第十七條ニ依リ會計檢査院ニ送付スル計算書中兵器彈藥水雷及其附屬品並祕密圖書測器海圖ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ檢閲官ノ證明書ヲ以テ保證スヘシ（二十六年勅令第四十七號ヲ以テ改正）

第五條　本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○

○軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件貸付竇渡方（明治二十七年七月勅令第九十二號）

朕軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公セ布ムシ

軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ヲ貸付ケ又ハ竇渡ス場合ニ於テハ官有財産管理規則第四條、第六條及第七條ニ依ラサルコトヲ得

○

○海軍造兵資材料金會計法（明治三十三年一月法律第九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍造兵材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵材料資金會計法

第一條　海軍造兵事業ノ需要ニ應スル爲材料貯蓄ノ資本トシテ海軍造兵材料資金ヲ設キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　海軍造兵材料資金ハ明治三十三年四月一日現在ノ海軍造兵廠及鎮守府兵器部ニ於ケル貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ毎年第六條ノ過剰金ニ相當スル金額ヲ加ヘ漸次增加シテ三百萬圓トス

第三條　海軍造兵材料資金會計ニ屬スル造兵材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條　海軍造兵材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ

第五條　造兵事業ニ使用シタル材料ノ殘材殘屑及廢兵器ニシテ造兵材料トシテ使用シ得ヘキモノハ海軍造兵材料資金會計ノ材料ニ組入ルルコトヲ得

第六條　毎會計年度ニ於テ海軍造兵材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ生スルトキハ其ノ過剰金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第七條　政府ハ毎年海軍造兵材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條　海軍造兵材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

○海軍造兵材料資金會計規則（明治三十三年三月勅令第五十五號）

朕海軍造兵材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵材料資金會計規則

第一條　造兵材料資金ノ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歳入トシ材料購入代、製作費、改製費、修理費並其ノ附屬諸費及損失金ヲ以テ歳出トス

第二條　造兵材料資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條　歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條　收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル

第五條　貯蓄材料ノ原價ハ購入代價、製作費、改製費、修理費並其ノ附屬諸費ヲ以テ計算スヘシ

但シ市價ノ低落又ハ毀損等ニ因リ其ノ實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其ノ價格ヲ改定スヘシ

第六條　貯蓄材料ヲ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ

第七條　貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前前年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第八條　歳入額、收入未濟額、資金ニ屬スル現金ノ持越高總材料ノ價格及代價支出濟未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出額、支出未濟額、資金額、前受金ノ精算未濟額、賣拂代收入濟材料ノ價格、賣拂代收入未濟既出材料ノ價格、損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出シト受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ造兵材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第九條　出納官吏ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル

第十條　帳簿ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條　此ノ規則ニ規定セサルモノハ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

○

○鎮守府造船材料資金會計法（明治二十三年三月法律第十九號）

朕鎮守府造船材料資金會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府造船材料資金會計法

第一條　鎮守府造船工場ニ於テ船舶ヲ製造修理スル爲メニ要スル材料貯蓄ノ資本トシテ造船材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　造船材料資金ハ從來横須賀鎮守府小野濱造船所ニ備ヘタル營業資本ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ

第四條　造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ

第五條　毎會計年度ニ於テ造船材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ生スルトキハ其過剰金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條　政府ハ毎年造船材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條　造船材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　本法ハ明治三十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關渉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○鎮守府造船材料資金會計規則（明治二十三年三月勅令第三十四號）

朕鎮守府造船材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府造船材料資金會計規則

第一條　造船材料資金ハ貯蓄材料買拂代金ヲ以テ歳入トシ材料購入代、製作費、改製費、修理費竝ニ其附屬諸費及損失金ヲ以テ歳出トス（二十七年勅令第百四十八號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

第二條　造船材料資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條　歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條　收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル（二十六年勅令第四十八號ヲ以テ本條但書削除）

第五條　貯蓄材料ノ原價ハ購入代價、製作費、改製費、修理費竝ニ其附屬諸費ヲ以テ計算スヘシ

但造船法ノ改良市價ノ低落又ハ毀損等ニ依リ其實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ（二十四年勅令第百九十五號及二十七年勅令第百四十八號ヲ以テ改正）

第六條　貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ（二十四年勅令第百九十五號ヲ以テ改正）

第七條　貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前々年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム（二十四年勅令第百九十五號ヲ以テ改正）

第八條　歳入額收入未濟額資金ニ屬スル現金ノ持越高及總材料ノ價格代價支出濟未收物品ノ價格ヲ受入トシ歳出額支出未濟額資金額賣拂代收入濟材料ノ價格損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剰アルトキハ造船材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第九條　材料ノ買入不用材料賣拂ノ規程ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十條　出納官吏ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條　帳簿ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル（二十六年勅令第四十八號ヲ以テ本條但書削除）

第十二條　本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計檢査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計檢査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ（二十六年勅令第二百二十五號ヲ以テ「出納官吏」ヲ「當該官吏」ト改ム）

第十三條　前條ノ外本規則ニ揭クル諸書類帳簿ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十四條　本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○

○軍艦水雷艇補充基金特別會計法（明治三十二年三月法律第七十九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル軍艦水雷艇補充基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍艦水雷艇補充基金特別會計法

第一條　軍艦水雷艇補充基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設ケス

第二條　償金特別會計資金ノ內三千萬圓ハ軍艦水雷艇補充基金ニ組入ルヘシ

第三條　明治三十七年度以後各前年度末日ニ於テ艦籍ニ現在スル艦艇製造費ノ左ニ揭クル遞減步率ニ相當スル金額ヲ每年度一般會計ヨリ軍艦水雷艇補充基金ニ組入ルヘシ

防護軍艦	百分ノ三、九
無防護軍艦	百分ノ五、四
水雷艇	百分ノ六、五

第四條　軍艦水雷艇補充基金ニ前條ノ組入ヲ爲スニ當リ艦艇製造費ノ左ニ揭クル遞減年期ヲ過キタル艦艇ニ對シテハ翌年度ヨリ其ノ組入ヲ停止シ爾後艦艇ノ艦籍ヨリ除カレタルモノアルトキ其ノ遞減殘額ニ相當スル金額ヲ翌年度ニ於テ一般會計ヨリ基金ニ組入ルヘシ

防護軍艦	二十五箇年
無防護軍艦	十八箇年
水雷艇	十五箇年

第五條　軍艦水雷艇補充基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條　軍艦水雷艇補充基金ハ軍艦水雷艇補充費ノ財源ニ充ツ但シ元資金三千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第七條　政府ハ每年軍艦水雷艇補充基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

○

○在外海軍用地租稅前金拂ノ件（明治二十四年三月勅令第二十四號）

朕在外海軍用地租稅前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省所管經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

在外海軍用地租稅

○

○陸海軍出師準備ノ物品ハ會計檢査院法ヲ適用セス（明治二十三年八月法律第七十號）

朕陸海軍出師準備ニ屬スル物品檢査ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其責ニ任シ會計檢査院法ヲ適用スルノ限ニアラス

○

○教育基金特別會計法（明治三十二年三月法律第八十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル教育基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金特別會計法

第一條　教育基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條　償金特別會計資金ノ內千萬圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ

第三條　教育基金ハ普通教育費ニ使用ス

前項普通教育費ノ使用ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ但シ元資金千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第五條　教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條　政府ハ每年教育基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

○

○官立學校及圖書館會計法（明治二十三年三月法律第二十六號）

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計法

第一條　文部省直轄學校及圖書館竝「農商務省所管東京農林學校」ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄附金及其他ノ收入ヲ以テ其歲出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄付シタル動產不動產及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス

第三條　教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務處費營繕費雜支出其他寄付者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歲出トス

第四條　學校及圖書館ノ寄付金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ

第五條　政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關渉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○官立學校及圖書館會計規則（明治二十三年三月勅令第五十三號）

朕官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計規則

第一章　資金

第一條　資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一　維持資金

第二　特別資金

維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス

特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ增殖ニ充ツルモノトス

第二條　資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條　資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限リ用途指定者ノ同意ヲ以テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第四條　資金ニ屬スル現金ハ總テ「預金局」ニ寄托スヘシ

第五條　資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證書其他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘンスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄付ニ係ル不動産ハ寄付者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ離權スルコトヲ得ス

第六條　資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第二章　歳入歳出

第七條　左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歳入トス

第一　政府ノ支出金

第二　授業料及試驗料

第三　寄付金

第四　公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五　土地家屋ノ貸付料

第六　實驗用生産品賣拂代
第七　雜收入
第八條　左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歳出トス
第一　教員事務員ノ俸給諸給及旅費
第二　學術用器具機械圖書及標本費
第三　授業費及試驗費
第四　奬學費
第五　生徒費
第六　事務所費
第七　營繕費
第八　雜支出
第九條　左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歳入トス
第一　政府ノ支出金
第二　書籍借覽料
第三　寄付金
第四　公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金
第五　土地家屋ノ貸付料

第六　雜收入
第十條　左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歳出トス
第一　事務員ノ俸給諸給及旅費
第二　圖書費
第三　閲覽室費
第四　事務所費
第五　營繕費
第六　雜支出
第十一條　經常歳出ハ經常歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歳出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム

第三章　豫算決算

第十二條　歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト倶ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ六月三十日ヲ八月三十一日ト改ム）
第十三條　所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ
第十四條　歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ

證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以內ニ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項以下三項追加）

學校長圖書館長又ハ其支部長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得 ⊛

第十五條 歲入歲出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ更ニ各目ニ分チ成ルヘク歲入ノ性質歲出ノ用途ヲ明示スヘシ（三十年勅令第二百九十三號ヲ以テ條中改正）

第十六條 （三十年勅令第二百九十三號ヲ以テ削除）

第四章 收入支出

第十七條 歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

所管大臣ハ學校若クハ圖書館ノ支部長ヲシテ歲出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項第次項追加）

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第二章第三款ノ例ニ依ル

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長圖書館長又ハ其ノ支部長之ヲ監督スヘシ（六年勅令第二百二十六號ヲ以テ條中改正）

第十八條ノ二 學校又ハ圖書館ハ當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ追加）

第十九條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ學校長又ハ圖書館長ヲ「學校長圖書館長又ハ其ノ支部長」ト改ム以下倣之）

第二十條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス

在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集若クハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ委託ヲ受ケタル在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ヲ受取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項改正）

學術試驗品標本品購入費奬學費生徒費事務所費ニ限リ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第二十一條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤヲ調査スヘシ（六年

（勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第二十二條　學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名（概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ）仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第二十四條　學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正）

第二十五條　各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日ヲ限リトス

第二十五條ノ二　定額戻入ニ關スル規程ハ第二十五條ノ三ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第六章第三款ノ例ニ依ル（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條及次ノ一條ヲ追加ス）

第二十五條ノ三　各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第二十六條　現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條　金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ（三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ本項中改正）

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絶スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正）

第二十八條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ其徴收簿ノ結果ニヨリ毎月徴收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ（三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正）

第二十九條　金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正）

第五章　年度繰越歳入殘餘

第三十條　毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未濟又ハ仕拂未濟トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條　工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條　所管大臣ハ學校又圖書館ノ經費ヲ繰越サントスル時ハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作リ必要ノ參照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ（三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正）

第三十三條　大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三十四條　特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ別途整理ヲ要スルモノヽ毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシ殘額ハ總テ翌年度ヘ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラサリシモノハ第三十條仕拂未濟金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支出殘額

及仕拂未濟金ハ寄付者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條　第三十條ニ依リ繰越シタル支出未濟及仕拂未濟ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條　毎年度ノ歳入中仕拂濟額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第六章　工事及物件ノ賣買貸借

第三十七條　工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章　出納官吏

第三十八條　出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル（三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正）

第八章　帳簿

第三十九條　大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額歳出ノ豫算額仕拂元受高支出濟額ヲ登記スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第四十條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ（三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正）

第四十一條　金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額支拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕出元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正）

第四十二條　會計主任ノ官吏ハ現金別納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第九章　雜則

第四十三條　本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計檢査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規定樣式ハ會計檢査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ（二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第四十四條　前條ノ外本規則ニ揭クル諸書類帳簿ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條　所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條　本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

本規則ト抵觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○

○郵便貯金郵便爲替金特別會計（明治二十三年三月法律第二十一號）

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　「中央備荒儲蓄金預金局預金」、郵便貯金郵便爲替金郵便取立金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ（三十三年法律第五十七號ヲ以テ條中改正）

第二條　「中央備荒儲蓄金ハ預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ」

第三條　「備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ」

第四條　「預金局」預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルトキハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條　「預金局」預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出

三十二年法律第七十七號ヲ以テ災害救助基金法ヲ以テ備荒儲蓄法ヲ廢止ス

トシテ之ヲ排出スヘシ

第六條　郵便貯金預所貯金ハ「預金局」ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ

第七條　郵便爲替、郵便貯金、郵便取立金取扱ノ爲特ニ据置運轉資本ヲ置キ從來ノ爲替資本ヲ以テ之ニ充ツヘシ（三十三年法律第五十七號ヲ以テ改正）

第八條　郵便爲替法第十三條郵便貯金條例第十一條及郵便法第十五條ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金、郵便貯金及郵便取立金ハ之ヲ一般ノ歲入ニ組入ルヘシ（仝上）

第九條　「預金局」預金、郵便貯金、郵便爲替金郵便取立金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ（三十三年法律第五十七號ヲ以テ條中改正）

第十條　本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○

○官設鐵道郵便電信郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金出納方（明治三十三年三月法律第五十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官設鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金出納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金ノ出納ハ鐵道、郵便、電信ハ電話官署ノ事務員ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

前項事務員ニ對シテハ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

○災害準備基金特別會計法（明治三十二年三月法律第八十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル災害準備基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

災害準備基金特別會計法

第一條　災害準備基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條　償金特別會計資金ノ內千萬圓ハ災害準備基金ニ組入ルヘシ

第三條　災害準備基金ハ左ノ目的ニ使用ス

一非常災害ノ爲租稅特免トナリタル場合ニ於テ生スル歲入缺損ノ補充

一各府縣災害土木費ノ補助ニ要スル財源ノ補充

前項土木費補助ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　災害準備基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第五條　災害準備基金千萬圓以內ニ減少シタルトキハ一般會計ヨリ其ノ缺額ヲ補塡スヘシ

第六條　政府ハ每年災害準備基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

○官有財産管理規則（明治二十三年十一月勅令第二百七十五號）

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

第一條　此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營業物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス

第二條　官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス

第三條　官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ

第四條　官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條　官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條　官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條　官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一　樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以內

第二　農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以內

第三　土地森林ノ使用權ハ十五年以內

第四　右ニ掲ケサル物件ハ三年以內

第八條　官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條　官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條　官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條　官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條　府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條　府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ

歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ內務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林內若ハ官廳使用地內ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財產保護上離樞シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條　官有財產ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財產ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條　此ノ規則施行ノ前ニ官有財產ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以內ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條　各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在セル所管官有財產ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財產ノ增減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二　賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三　讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四　交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財產

第五　買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條　此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財產ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未濟ノ官有財產ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條　此ノ規則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

○帝國議會用官有財產事務掌理方（明治二十四年二月勅令第十五號）

朕帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル

第二條　前條事務ノ指揮監督ハ大藏大臣之ヲ行フ（二十七年勅令第百六十一號ヲ以テ內務大臣トアルヲ大藏大臣ト改ム）

○森林資金特別會計法（明治三十二年三月法律第八十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル森林資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林資金特別會計法

第一條　國有林野ノ處分國有林ノ實測、施行案編製、造林及森林買上ニ係ル特別經營ノ爲森林資金ヲ

置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條　森林資金ハ國有トシテ存置ノ必要ナキ林野賣拂代金ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　森林資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第四條　○森林資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

第五條　第一條ニ掲クル特別經營ノ事業完了ノ上森林資金ニ剩餘アルトキハ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第六條　政府ハ毎年森林資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條　森林資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三十二年勅令第百二十三號ヲ以テ森林資金ノ收入支出ニ關スル件ヲ定ム

附則

第八條　本法ハ明治三十二年度ヨリ之ヲ施行ス

一　日○

第十○帝國大學資金所屬森林原野並産物特別處分規則明治三十一年五月勅令第九十三號

朕帝國大學資金所屬森林原野並産物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學資金所屬森林原野並産物特別處分規則

第一條　文部大臣ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ帝國大學資金所屬森林原野ノ貸渡及其ノ産物ノ賣却ヲ爲スコトヲ得

一　官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若ハ建築材料ヲ賣渡ストキ

二　見積借地料一箇年二百圓ヲ超エサル森林原野ヲ貸渡ストキ

三　從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若ハ土石ヲ賣渡ストキ

四　林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

五　季節アル生産物ヲ賣拂フトキ

六　部分木ヲ其ノ仕付人ニ賣拂フトキ

第二條　文部大臣ハ競爭入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フコトヲ得

○官有地特別處分規則明治二十三年七月勅令第百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一　官有地特別處分規則

第一條　内務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ

得　内務大臣ハ法令ニ規定ナキ場合ニ限リ左ノ事項ニ関シ許可ス

一　直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地又貸渡又ハ賣渡ストキ

二　不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

三　鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要闕クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四　會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條　直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徴收セサルモノトス

第三條　府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條　北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

○

○官有地取扱規則（明治二十三年十一月勅令第二百七十六號）

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

第一條　官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス

第二條　官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徴收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條　各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條　各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ

第五條　甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條　各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依リテ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條　官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得

第九條　借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條　借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條　官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラザル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條　官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ願フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラザル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條　官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條　隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條　官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條　本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條　官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○

○在外國帝國專管居留地特別會計法（明治三十三年三月法律第三十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル在外國帝國專管居留地特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○在外國帝國專管居留地特別會計法

第一條　在外國帝國專管居留地經營ノ爲特別ノ會計ヲ設置ス

第二條　在外國帝國專管居留地特別會計ハ帝國專管居留地內ノ地所家屋ノ拂下代其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ帝國專管居留地內ノ地所家屋ヲ買收及居留地ノ設備維持其ノ他一切ノ費用ヲ歲出トス

第三條　在外國帝國專管居留地特別會計ヲ收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ百萬圓ヲ限度トシ國庫內他ノ會計ヨリ一時借入ヲ爲スコトヲ得

第四條　政府ハ毎年在外國帝國專管居留地特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第五條　本法ヲ適用スヘキ在外國帝國專管居留地ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三十三年勅令第百十二號ヲ以テ三十三年度ヨリ在清天津日本專管居留地ニ本法ヲ適用ス

○

○在外公館經費中前金拂ノ費目明治二十三年三月勅令第三十二號

朕在外公館經費中前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外公館經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

租　稅　區費其他雜稅　公館借料

○

○艦船經費一時繰替支辨方明治三十年四月勅令第百二十七號

朕艦船經費一條繰替支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省所管機動費ノ現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ハ其ノ現金ヲ以テ艦船經費ニ限リ一時繰替支辨スルコトヲ得

○

○在外國難民貸與金一時繰替支辨方明治二十四年一月勅令第一號

朕在外國難民貸與金一時繰替支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國公使館若ハ領事館ニ於テ現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ハ其現金ヲ以テ最初前渡ヲ受ケタル目的ノ外難民貸與金ニ限リ一時繰替支辨スルコトヲ得

○

○會計年度開始前現金支出規則明治二十二年七月勅令第九十五號

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計年度開始前現金支出規則

第一條　各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作リ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ（二十六年勅令第二百三號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第二條　大藏大臣前條ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ（二十六年勅令第二百三號ヲ以テ改正）

第三條　前各條ニ定メタルモノノ外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

○

○仕拂命令委任規程明治二十二年七月勅令第八十九號

朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程

第一條　各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條　委任ヲ受クル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

○

○國債ニ關スル支拂及收入金決算方（明治二十三年三月勅令第二十號）

朕國債ニ關スル支拂及收入金決算ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　會計法第十五條第二項ニ依リ國債元利金仕拂ノ爲メ銀行ニ現金ノ前渡ヲ爲シタルトキハ會計規則第九十八條ニ準シ銀行ヲシテ其仕拂ヲ會計檢査院ニ證明セシムヘシ

第二條　法律命令ニ依リ日本銀行ヲシテ國債ノ募集又ハ借入ヲ取扱ハシムルトキハ日本銀行ハ大藏大臣定ムル所ノ期限ニ出納ノ計算書ヲ製シ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受ル爲メ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第三條　大藏省國債局長ハ前條計算書ノ下檢査ヲ施行シ其下檢査書ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

○

○陸軍給與ニ關スル委任經理（明治二十三年三月法律第二十七號）

朕陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ヲ裁リシ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陣營具及馬匹ニ係ル給與ハ其定額ヲ各隊ニ交付シ隊長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第二條　陸軍諸學校生徒ニ屬スル給與其他軍隊ニ準據スヘキ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ經理ヲ委任スルコトヲ得

第三條　委任經理ニ係ル給與ノ殘金ハ各々其費目ニ屬スル積立金ト爲シ便宜之ヲ使用スルコトヲ得

第四條　委任經理ニ屬スル廢物賣却代及損壞遺失等ノ補償金ハ各々其經理費ニ充ルコトヲ得

第五條　委任經理ニ係ル會計ノ檢査ハ會計檢査院法第十六條ニ依ル

第六條　此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○

○出納官吏身元保證金納付方（明治二十三年一月勅令第百四號）

朕出納官吏身元保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ（二十九年勅令第百六十八號ヲ以テ齋藤ニ於ケル出納官吏身元保證金納付方ヲ示ス）

但兵備品ノ出納ヲ取扱フ武官ハ本條ノ限ニアラス（二十四年勅令第五十一號ヲ以テ但書追加）

第一　現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二　常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三　物品會計官吏

第二條　身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニ限リ明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保證金額ヲ平分シ每

年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條　身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利足ノモノヲ以テシ其價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條　身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條　會計規則第百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ヲ公賣スルトキ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條　（二十六年勅令第二百四號ヲ以テ削除）

○

○郵便爲替金及貯金ノ出納官吏身元保證金（明治二十三年六月勅令第百五號）

朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　郵便爲替金及貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ明治二十三年勅令第四號第一條ノ制限ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ

第二條　三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ明治二十三年勅令第四號第二條ノ但書ヲ適用セス

第三條　會計規則第百四條第百五條及「明治二十三年勅令第四號第六條」ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ遞信大臣之ヲ行フヘシ

（二十六年勅令第二百十二號ヲ以テ會計規則中ヲ改正スル間ニ合ハシメテ第二百四十四號ヲ以テ削除ス）

○

○歳入歳出外現金出納取扱官吏ノ準則（明治二十三年三月勅令第三十五號）

朕政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章及第九章中現金ヲ領收スル收入官吏ニ關スル各條ニ準據ス

○

○保管金規則（明治二十三年一月法律第一號）

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保管金規則

第一條　法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノ

（二十六年大藏省令第二十號ヲ以テ保管物ノ處置ニ關スル規程ヲ定ム）

三十同三年法第十八號ノ期間ハ律法施行前ノ保管金ニシテハ同法施行ノ日リヨリ起算ス

ハ各其定ムル所ニ依ル（三十三年法律第十八號ヲ以テ三十年ヲ五年ニ改ム）

第一　保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二　保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三　訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條　保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條　保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條　保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

○

○政府保管ノ義務アル公私有金寄托方（明治二十三年一月勅令第二號）

朕政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金規則ニ定メタルモノヽ外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ總テ大藏省「預金局」ニ寄托スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

○

○各官廳管理政府所有及政府保管ノ義務ヲ有スル有價證券寄托方（明治二十六年七月勅令第七十號）

二十六年大藏省令第十九號ヲ以テ預金取扱規程ヲ定ム

朕各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券及政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル有價證券寄托ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券ハ保管ノ爲メ大藏省「預金局」ニ寄托スヘシ

政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ大藏省「預金局」ニ寄托スヘシ

○

○預金規則（明治十八年五月第十三號布告）

預金規則左ノ通制定ス

預金規則

第一條　大藏省中ニ「預金局」ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム

第一　「郵遞局」貯金

第二　各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金

第三　社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ

第二條　預リ金取扱手續ハ「大藏卿」之ヲ定ム

第三條　預リ金ノ利子割合ハ「大藏卿」之ヲ定ム

第四條　預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス

第五條　預リ金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス

第六條　預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス

第七條　「大藏卿」ハ便宜ノ地ヲ撰ミ「預金局」出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第八條　預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○

○預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換方（明治二十三年八月法律第七十五號）

朕預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　預金規則第一條第二條第三條ニ依リ「預金局」ニ預リタル金額三百圓以上ニ達スルトキハ預ケ人ノ請求ニ依リ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第二條　前條預金ノ額貳千圓ヲ超過スルトキハ「預金局長」ハ其超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第三條　前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ全額ヲ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除クノ外所有者ノ望ニ依リ之ヲ「預金局」ニ保管スルコトヲ得

第四條　本法ハ明治二十四年十月一日ヨリ施行ス

○

○供託法（明治三十二年二月法律第十五號）

（三十二年大藏省令第六號ヲ以テ本法取扱規程ヲ定ム）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託法

第一條　法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條　金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス

第三條　金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテハ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條　金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘタル有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條　司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條　倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條　倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條　供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ對シ之ヲ還付スル

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコトハ供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條　供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無效トス

第十條　供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附　則

第十一條　本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條　第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條　明治二十三年勅令第百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○

○金庫規則（明治二十二年十二月勅令第百二十六號）

二十二年大蔵令第十七號ヲ以テ金庫規程ヲ定ム

朕金庫規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金庫規則

第一條　金庫ハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トス

第二條　金庫ヲ分テ左ノ三種トス

第一　中央金庫

第二　本金庫

第三　支金庫

第三條　東京ニ中央金庫ヲ置キ地方ニ本金庫及支金庫ヲ置ク（二十八年勅令第百二十九號ヲ以テ次項トモ改正）

本金庫支金庫ノ位置及各金庫ノ出納區域ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第四條　金庫ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第五條　中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ支金庫ヲ總轄ス但本金庫ヲ置カサル地方ノ支金庫ハ中央金庫之ヲ總轄ス（二十八年勅令第百二十九號ヲ以テ改正）

第六條　中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

第七條　日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店出張店又ハ代理店ヲ設置スヘシ（二十八年勅令第百二十九號ヲ以テ支店ノ下ニ出張店ノ三字ヲ加フ）

第八條　日本銀行ノ支店長出張店長又ハ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人トシテ其事務ヲ分擔スヘシ（二十八年勅令第百二十九號ヲ以テ本條改正）

第九條　日本銀行ハ第七條ニ據リ各地ノ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス

第十條　大藏大臣ハ檢査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

此場合ニ於テハ日本銀行本支店出張店代理店タル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ檢査スルコトアルヘシ（二十八年勅令第百二十九號ヲ以テ本支店ノ下ニ出張店ノ三字ヲ加フ）

第十一條　日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

第十二條　金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ檢査規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條　本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○

○國庫金出納上一時貸借方

（明治二十七年六月法律第十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國庫金出納上一時貸借ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徵シテ之ヲ當坐預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ルヽコトヲ得

第二條　政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條　前條ニ依リ政府ノ借入ルヽコトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

○第九類　租稅　附葉煙草專賣法

○地租條例 明治十七年三月第七號布告

沿革略記　明治元年八月布告全國ノ稅法姑ク舊慣ニ仍ラシメ納稅等ノ手續ヲ定ム●六年七月第二百七十二號布告ヲ以テ全國ノ地租ヲ改正シ舊法ヲ廢シテ地價ヲ定メ新ニ地券ヲ設ケ本價百分ノ三ヲ以テ正租トナス仍テ地租改正條例及施行規則ヲ頒布ス●七年五月第五十三號布告ヲ以テ地租改正後五年間ハ最初定メタル地價ニ據リ收稅スヘキ旨ヲ前令ニ追加ス●九年五月第六十七號布告ヲ以テ墾田切開切添地ノ處分ヲ定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ地租改正ニ臨ミ一郡內等ノ中一部分ノミ承服セサル節地價定方ヲ定ム●十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シ地價百分八或分五厘トナス○同年一月第八號布告ヲ以テ民有地荒地處分ヲ定ム○同年二月第十八號布告ヲ以テ地租改正後拂下地潰シ地收稅區分ヲ定ム○同年十月第七十號布告ヲ以テ地租改正條例ニ據リ總テ耕地ト唱ヘシムト雖モ尚ホ田畑ノ稱ヲ併用セシム●十三年五月第二十五號布告ヲ以テ七年第五十三號布告ノ地租改正後五年間據置ノ地價ハ尚ホ明治十八年迄據置收稅ノコトトナス●十五年七月第三十四號布告ヲ以テ脫稅ノタメ土地ヲ欺隱スル者ノ罰例ヲ定ム●十七年三月第七號布告ヲ以テ前ノ地租改正條例及地租改正ニ關スル條規等ヲ廢シ地租條例ヲ制定ス是レ現行法ナリ

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣根室縣」ハ當分從前ノ通タルヘシ

（別冊）

地租條例

第一條　地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ增徵ス（三十一年法律第三十二號ニテ以テ本項追加）

三十一年法律第三十二號附則及同年勅令第三百六十一號參照

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ揭ケタル價額ヲ謂フ（二十二年法律第三十號ヲ以テ但書改正）

第二條　地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ增減セス

第三條　有地租ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類　田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類　池沼、山林、牧場、原野、雜種地（二十二年法律第三十號ヲ以テ本項改正）

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ由朋、川欠、掘、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條　公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第五條　土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條　地價ヲ定ムルトキハ地盤ヲ丈量ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第七條　地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第八條　一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條　地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條　地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ屆出ヘシ（廿二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第地目變換ノ土地ハ五年以內ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニアラス（二十二年法律第三十號ヲ以テ追加）

第第二類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ追加）

第十一條　免租地ヲ有租地ニ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條　地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第十三條　有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ本項改正）

免租地ヲ有租地ト爲ストキハ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條　地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第十五條　荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徴收ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第十六條　開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正シ以下各項ヲ追加ス）

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ難ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出歟下年期ノ許可ヲ受クヘシ歟下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尚ホ十年以内ノ歟下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條　（二十二年法律第三十號ヲ以テ削除）

第十八條　第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第十九條　歟下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十條　荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ本項ヲ改正シ次項ヲ追加ス）

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條　荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十二條　低價年期明ニ至リ尚ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十三條　免租年期明ニ至リ尚ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十四條　川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尚ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十五條　土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ但書改正）

第二十六條　第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十七條　第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上十圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾届出ヲ爲サヽルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租增額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以

前ニ遡ルコトヲ得ス（二十二年法律第三十號ヲ以テ改正）

第二十八條　第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條　第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スベキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例施行規則（明治三十二年三月勅令第百十一號）

民地租條例施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

第一條　土地ニハ番號ヲ付シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條　一筆ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス

一　別地目トナルトキ

二　有租地ニシテ免租地トナルトキ

三　免租地ニシテ有租地トナルトキ

四　所有者ヲ異ニスルトキ

五　質權ノ目的トナルトキ

第三條　地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校、鄉村社地ハ借地ニアラサルモノニ限ル

第四條　第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第五條　地目變換又ハ地類變換ノ後五年以內ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條　地目變換ノ後五年以內ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ開墾著手ノ年ヨリ十年目又ハ鍬下年期明ニ至リ其ノ成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス

地類變換ヲ爲シタル後五年以內ニ於テ再ヒ第一類地トナストキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ストキハ地目變換ヲ爲シタルモノトス

第七條　開墾著手後十年以內又ハ鍬下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタルモノトシ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第八條　地目變換若ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以內ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト爲シタルトキハ其ノ地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス

第九條　地租條例第十條第一項ニ違犯スル者其ノ變換ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ其ノ發覺ノ年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十條　地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ屆出ト看做

ス

第十一條　官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鍬下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第十二條　荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サス

第十三條　荒地免租年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地トナリ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル荒地免租年期又ハ低價年期ハ消滅ス

第十四條　地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法第五十六條ニ依リ鍬下年期、地價据置年期、免租年期、繼年期又ハ低價年期ヲ受ケントスル者ハ稅務管理局長ニ願出ツヘシ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ所有者ハ稅務管理局長ニ屆出ツヘシ

一　有租地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所ノ敷地ト爲ストキ

二　地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ

三　開墾ヲ爲サムトスルトキ開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ

四　官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鍬下年期又ハ新開免租年期ヲ請ハサルトキ

五　鍬下年期明、地價据置年期明、新開免租年期明、荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ

六　數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セムトスルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ相當ノ地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十六條　地租ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村內ニ居住スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ申告スヘシ

○

○北海道地租定率（明治九年十二月第百六十一號布告）

沿革略記（明治五年六月開拓使ヨリ北海道開墾地收稅額ヲ定ム●九年十二月第百六十一號布告ヲ以テ北海道ノ地租地價百分ノ一ト定ム是レ現行法ナリ）

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一ニ相定候條此旨布告候事

○北海道開墾地地租地方稅免除（明治二十二年六月法律第十八號）

朕北海道開墾地地租地方稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十

一年迄特ニ地租地方税ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ向キ十箇年間地租地方税ヲ課セス

○

○地價地租計算方（明治三十二年三月法律第五十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地價地租ニ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキ計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地價ヲ定メ又ハ之ヲ修正シ若ハ土地ヲ分合スルトキ地價及地租ノ算出上一錢未滿ノ端數ヲ生シタル場合ニ於テ五厘未滿ハ切捨テ五厘以上ハ切上ケ一錢トシテ計算スルモノトス但シ一筆ノ地租ニシテ一錢未滿ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

○

○土地臺帳規則（明治二十二年三月勅令第三十九號）

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

第一條　土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條　市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條　登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條　土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ以テ手數料ヲ納ムヘシ

第五條　「地券」ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條　本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條　市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○

○買上地拂下地等收税除税區分（明治十年二月第十八號布告）

地租改正後買上地拂下地潰地等收税除税區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條　民有地ヲ買上ル時其年分ノ税ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條　官有地ヲ拂下ル時其年分ノ税ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條　民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時ハ工事著手ノ月ヨリ除税スヘシ一旦著手スルモ若シ工事ヲ中止シテ六ケ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除税ノ限ニアラス（十五年第三十五號布告ヲ以テ改正）

但七ケ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ケ月毎ニ其工程ヲ量リ除税ノ區域ヲ定ムルモノトス

○

○地租徵收期限 明治二十四年三月 法律第二號

沿革略記 明治元年八月稅法ハ當分舊慣ニ依リ各府縣藩ノ租稅金米ノ納付方ヲ示ス●四年四月社寺領上地ノ收納官廳期月等ヲ定ム○同年七月廢藩置縣ニヨリ租稅徵收ハ姑ク舊慣ニ依ラレム●五年八月第二百二十二號布告ヲ以テ貢米石代金上納期等ヲ定ム●六年十二月大藏省第百八十七號達ヲ以テ改曆ニ由リ地租收納期月ヲ改ム●九年一月第三號布告ヲ以テ郡ヲ前令ヲ廢シ地租徵收期限ヲ定ム●十年七月第五十三號布告ヲ以テ徵收期限ヲ區分シ畑方三期田方三期合テ六期ト改定ス●十四年二月第十四號布告ヲ以テ前令ヲ改メ四期ニ區分シ畑方田方各二期トナシ十八年六月第十五號布告ヲ以テ田方ヲ四期トナス●二十四年三月法律第二號ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期	該年九月一日ヨリ同九月三十日限	畑方及宅地山林原野牧場	五分
二期	該年十一月一日ヨリ同十一月三十日限	同	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限	田方	貳分五厘
四期	翌年二月一日ヨリ同二月二十八日限	同	貳分五厘
五期	同年三月一日ヨリ同三月三十一日限	同	貳分五厘
六期	同年五月一日ヨリ同五月三十一日限	同	貳分五厘

○大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租徵收期限 明治三十年三月 法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地租徵收期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス

大隅國大島郡ノ內大島、德ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島

翌年五月一日ヨリ同三十一日限

薩摩國川邊郡ノ內硫黃島、竹島、黑島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀬島、臥蛇島、悪石島、

島

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限

○

○府縣郡市町村其他公共團體ノ所有地免租方 明治三十三年二月 法律第十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣郡市町村其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ノ所有地ニシテ其ノ公用ニ供スルモノハ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ公用廢止ノ年マテ地租及公課ヲ免ス

附則

本法ハ明治三十三年分地租及公課ヨリ適用ス

○

○傳染病院等ノ敷地地租免除（明治三十一年六月法律第四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病院等ノ敷地地租免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ニ依ル常設ノ傳染病院隔離病舍隔離所及消毒所ノ敷地ニシテ設立者ノ所有ニ係ルモノハ工事著手ノ月ヨリ供用廢止ノ月迄月割ヲ以テ其ノ地租ヲ免ス

○

○登錄稅法（明治二十九年三月法律第二十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

二十九年大藏省令第六號ヲ以テ登錄稅法施行細則ヲ定ム

登錄稅法

第一條　登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ各號共改正）

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ七

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ十五

三　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ四十

四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ二十五

五　從來保有セル所有權ノ保存　不動產價格　千分ノ二

六　共有物ノ分割　分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格　千分ノ五

七　永代ノ地上權ノ取得　不動產價格　千分ノ二十五

八　地上權、永小作權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ二

存續期間二十年未滿　不動產價格　千分ノ三

存續期間三十年未滿　不動產價格　千分ノ四

存續期間三十年以上　不動產價格　千分ノ五

十一　存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ五

十二　但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

十三　九　賃借權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ一

存續期間十年以上　不動產價格　千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

十　地役權ノ取得　要役地價格　千分ノ一

十一　華族世襲財產ノ創設　不動產價格　千分ノ二十

十二　先取特權ノ保存又ハ取得　債權金額又ハ不動產工事費用豫算金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三　質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價價ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四　競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ六

但シ競賣若ハ强制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七　相續財產ノ分離　不動產價格　千分ノ六

所有權ニ付テハ　不動產價格　千分ノ一

所有權以外ノ權利ニ付テハ　不動產每一箇　金二十錢

十八　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　不動產每一箇　金二十錢

十九　假登記　不動產每一箇　金二十錢

二十　豫告登記　不動產每一箇　金二十錢

二十一　附記登記　不動產每一箇　金十錢

二十二　登記ノ更正變更又ハ抹消

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（全上）

第二號　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

第三號　第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ六

二　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ二十

三　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ十五

四　從來保有セル所有權ノ保存　船舶價格　千分ノ一

五　賃借權ノ取得

存續期間十年未滿ニ付スルモノ　船舶價格　千分ノ二

存續期間十年以上　船舶價格　千分ノ二

存續期間ノ定ノナキモノ　船舶價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

六　質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

七　競賣ノ申立　債權金額　千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十　登記ノ更正、變更又ハ抹消　船舶每一箇　金十錢

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第四條　船籍ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（全上）

一　新規登錄　每十噸　金五十錢

二　轉籍　每十噸　金十錢

三　除籍　每十噸　金五錢

四　登錄ノ變更　船舶每一箇　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（上全）

一	新規登錄	地價	千分ノ二十
二	地價ノ設定	地價	千分ノ十
三	地價ノ修正	地價	千分ノ十
四	開墾	地價	千分ノ十
五	鍬下年期付與	地價	千分ノ十
六	地價据置年期付與	地價	千分ノ十
七	鍬下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
八	新開免租年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
九	低價年期ノ付與	地價	千分ノ十
十	地租條例第二十二條ノ地價ノ修正	地價	千分ノ一
十一	地價ノ復舊	地價	千分ノ一
		地價	千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス（上全）

一	合名會社、合資會社設立	財產ヲ目的トスル出資ノ價格	千分ノ三
二	合名會社、合資會社出資增加	財產ヲ目的トスル增出資ノ價格	千分ノ三
三	株式會社設立	拂込株金額	千分ノ四
四	株式會社資本增加	增資拂込株金額	千分ノ四
五	株式會社第二回以後ノ株金拂込	每回拂込株金額	千分ノ四
六	株式合資會社設立	拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ四
七	株式合資會社資本增加	增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ四
八	株式合資會社第二回以後ノ株金拂込	每回拂込株金額	千分ノ四
九	合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立	拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ一
十	合併ニ因ル會社資本ノ增加	增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ一
十一	債券發行	債權總金額	千分ノ一
十二	支店設置	每一箇所	金十圓
十三	本店又ハ支店ノ移轉	每一件	金五圓
十四	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	每一件	金五圓
十五	登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス	每一件	金五圓
十六	登記ノ更正又ハ抹消	每一件	金五圓
十七	解散	每一件	金三圓

十八　清算人ノ選任、解任又ハ變更　毎一件　金一圓
十九　清算ノ結了　毎一件　金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法人ノ設立（民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノノ新ニ受クル登記トモ）　毎一件　金五圓
二　法人設立後ノ事務所設置　毎一件　金三圓
三　事務所ノ移轉　毎一件　金二圓
四　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　毎一件　金一圓
五　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金一圓
六　解散　毎一件　金五十錢
七　清算人ノ選任、解任又ハ變更　毎一件　金五十錢
八　清算ノ結了　毎一件　金五十錢

主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第六條ノ二　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ追加）

一　商號ノ新設又ハ取得　毎一件　金五圓
二　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　毎一件　金五圓
三　船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　毎一件　金五圓
四　商法第五條第七條ニ依ル登記　毎一件　金五圓
五　民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記　毎一件　金二圓
六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　毎一件　金一圓
七　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第七條　左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　金二十圓
二　登錄換　金十圓
三　取消ノ請求　金一圓

第八條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ假免許師綴工金一圓ノ項ヲ追加ス）

一　新規登錄　醫師　金二十圓

藥劑師　金十二圓
獸醫　金十二圓
蹄鐵工　金五圓
假開業醫師　金五圓
假免許獸醫　金三圓
假免許蹄鐵工　金一圓
二　登錄事項ノ變更　每一件金五十錢

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正）

一　新規登錄
甲種船長　金十五圓
甲種一等運轉士　金十圓
甲種二等運轉士　金六圓
乙種船長　金十圓
乙種一等運轉士　金四圓
乙種二等運轉士　金三圓
丙種船長　金六圓
丙種運轉士　金二圓

第十一條第十二條及第十三條ハ三十二年七月一日ヨリ施行

機關長
一等機關士　金十五圓
二等機關士　金十圓
三等機關士　金六圓
水先人　金三圓
二　登錄事項ノ變更　金二十圓
金五十錢

第十條　著作權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（上仝）

一文藝、學術、美術ノ著作物　每一種一回　金十圓
但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク
一新聞紙定期刊行物　每一號　金五十錢
一演劇脚本　每一種一回　金五十圓
一寫眞　每一版　金五圓
一著作權ノ讓渡又ハ質入　每一件　金五圓
一無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄　每一件　金五圓

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第六十號ヲ以テ改正）

一　讓渡又ハ共有　每一件金十圓
二　質入　每一件金五圓

第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（上欄）

一　讓渡又ハ共有　物品一類毎ニ金二圓

二　質入　物品一類毎ニ金一圓

第十三條　商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ（上欄）

讓渡又ハ共有　商品一類毎ニ金十圓

第十四條　鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正）

一　試掘　金七十五圓

二　採掘　金百五十圓

三　試掘增區及增減區ニ係ル訂正　金三十圓

四　採掘增區及增減區ニ係ル訂正　金七十五圓

五　買受、讓受　金七十五圓

六　採掘權書入又ハ試掘延期　金二十圓

七　減區ニ係ル訂正　金五圓

八　鑛區ノ合併又ハ分割　金五圓

九　廢業　金十五圓

第十五條　（三十二年法律第三十二號ヲ以テ削除ス）　金五圓

第十六條　國債ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正）

一　新規登錄　債權金額　千分ノ二

二　登錄變更　債權金額　千分ノ一

三　登錄除却　債權金額　千分ノ一

第十七條　登錄稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　登錄稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條　左ニ掲クルモノニハ登錄稅ヲ課セス（三十二年法律第八十三號ヲ以テ追加）

一　政府自己ノ爲ニスル登記

二　府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ノ登記（三十三年法律第四十四號ヲ以テ本號中公國ノ二字ヲ削ル）（三十三年法律第四十四號ヲ以テ本號改正）

三　社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記

四　明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二　登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム（三十二年法律第八十三號ヲ以テ各項追加）

前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス

官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

第二十條　本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條　現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手數料等ニシテ本法ニ規定スル登錄稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○登錄稅法施行規則（明治三十二年五月勅令第二百五號）

朕登錄稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登錄稅法施行規則

第一條　印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條　登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條　官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ

第四條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲サヽルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第六條　登錄稅法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

○

○營業稅法（明治二十六年三月法律第三十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法

第一條　左ニ揭クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

一　物品販賣業
一　銀行業
一　保險業
一　金錢貸付業
一　物品貸付業
一　製造業
一　運送業

一倉庫業
一運河業
一機橋業
一船渠業
一船舶碇繫場業
一貨物陸揚場業
一土木請負業
一勞力請負業
一印刷業
一寫眞業
一席貸業
一旅人宿業
一料理店業
一公ナル周旋業
一代辨業
一仲立業
一仲買業

第二條　營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

一　一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ仕拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二　一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三　牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四　魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五　動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域內ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條　營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條　營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物

品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條　運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第六條　倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條　印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條　貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條　營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條　營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十一條　左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

一　政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣

三　度量衡ノ製作、修復、販賣

第十二條　營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額 建物賃貸價格	千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
銀行業、保險業、金錢貸付業、物品貸付業	資本金額 建物賃貸價格	千分ノ二 千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
倉庫業	資本金額 建物賃貸價格	千分ノ二 一人毎ニ金一圓
製造業、印刷業、寫眞業	資本金額 建物賃貸價格	千分ノ一半 千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
運送業、運河業、橋梁業、船渠業、倉庫業、市場業、貨物陸揚業	資本金額 從業者ノ內職工勞役者	千分ノ二半 一人毎ニ金三十錢
土木請負業、勞力請負業	請負金額 從業者	千分ノ二 一人毎ニ金一圓
席貸業、料理店業	建物賃貸價格 從業者	千分ノ六十 一人毎ニ金一圓
旅人宿業	建物賃貸價格 從業者	千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業	報償金額 從業者	百圓毎ニ金一圓 一人毎ニ一圓

第十三條　此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ屆出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ屆出ヲ爲スヘシ

營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ屆出ヘシ

第十四條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條　物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辨業仲立業、仲買業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ揭ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス

但シ內國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ內國ニ於ケル各店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ內國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス

（三十二年法律第三十二號ヲ以テ但書追加）

第十六條　第十三條ニ依リ屆出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一　賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二　資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三　從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　營業者ノ申告シタル資本金額ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其ノ殘額ノ二十倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スルコトヲ得

第十八條　建物賃貸價格ハ店舗其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域內ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地、建物ノ貸借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃貸價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃貸價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃貸價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル賃貸價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ定ムルコトヲ得

第十九條　名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條　營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ稅金